

## 書 評

電力新報社発行

山谷 修著作 定価 1,000円

## よくわかる 新しい電気料金制度

評者 雑 賀 幹 人\*

Mikindo Saiga

昨年7月に電気事業法が31年ぶりに改正され、12月に施行されたが、なぜ改正が行われることになったのかを振り返ってみる。

わが国の電気事業は、現在の10電力体制ができた昭和26年以来、高品質、安定した電力供給とともに料金の安定化にも努めてきた。

しかしながら、近年の急激な円高に伴い、電気料金水準の内外価格差が拡大し、電気料金が外国と比べて高すぎるといふ厳しい批判を浴びるようになった。

そしてまた、着実に増加していく電力需要に対して供給力を確保することに伴う設備関連コストの増大や、夏季ピーク需要の尖鋭化による負荷率の悪化が電力供給コストを引き上げる要因となってきた。

一方、1980年代において規制緩和は世界的な潮流となり、わが国においても各種の規制緩和の問題が取り上げられ、地域独占を認められていることから政府の規制を受けている電力、ガス業界についても、公正、簡素、透明性の原則の下に、「事業者の創意工夫を活かし、競争原理の導入と消費者利益のために分散型電源の活用など規制の弾力化を図る。」ことが必要であるとされた。

電気事業を取りまく情勢がこのように推移する中で、低廉な電気料金を実現し、お客さまの利益を増大するために、海外における電気事業の自由化事例も参考に、効率的な電力供給システムを構築するために電力供給システムのあり方等を総合的に見直す事となり、電気料金制度についてもさらなる電気料金の低廉化を目指して見直しが行われることになった。

私のように電力会社の中にあっても研究開発にたずさわる者にとって電気料金制度の改革について具体的な内容が理解しにくいのが実態である。

しかし、本書は体系的にわかりやすく解説したもの

で一般の需要家の方々を始め、電力業界人にとっても、理解の深まる著書である。

本書の展開は、電気料金制度のみを解説したのではなく、制度改革に至る背景をとらえた「電気事業が直面する経営課題」から始まり、「米国の電気事業自由化動向」そして「新しい電気料金制度の基本的考え方」に詳細にふれた後に、今回の「新しい電気料金制度の仕組み」がどのようなものであるかが大変わかりやすく記述されている。

「電気事業が直面する経営課題」では、年間事故停電時間、発電電力量1kWh当たりのSO<sub>x</sub>排出量、NO<sub>x</sub>排出量について欧米各国との比較結果を示し、日本の電力の品質の高さ、環境保全対策の水準の高さを示した上で、電気料金は円高進行により国際的に高い水準であるとの指摘があるとしている。

このような状況下で、わが国の電気事業は安定供給を至上命題に掲げ、電力需要の増加に対応して設備投資に多額の資金を投入してきた結果、財務体質が悪くなり、年負荷率の低下等が相まってきた結果、経営効率化が必要とされてきた、としている。

そして、「新しい電気料金制度の基本的考え方」においては、現行の総括原価方式が何故採用されているかにふれた上で、インセンティブ規制方式の主要なものを平易に解説し、なぜ再び総括原価方式が選ばれたのかが述べられている。

この中で、我々電力会社に携わっている者にとっても聞き慣れなかった「ヤードスティック方式」の機能が述べられ、これが適用されることによって電気事業全体の継続的な効率化が促されることが期待されている。次に「新しい電気料金制度の仕組み」においては、新制度の大きな特徴となるヤードスティック方式について、査定時の評価方法を数値例で示され、そのプロセスが解説されている。

最後は第五章「効率化が一層進む電力経営」となっており、電力会社は経営効率化の手段としてデマンド

\* 関西電力㈱研究開発室調査役

〒530-70 大阪市北区中之島3-3-22

サイド・マネジメント (DSM) に積極的に取り組むことになろう、として、「DSMの目的と方策」についてわが国での実施状況を踏まえながら解説されている。DSMは需要家宅のエネルギー診断やエアコンの直接負荷制御の例に見られるように電力会社と需要家の接触の機会を飛躍的に増大させるため、電力会社にとって市場競争力が高まる手段であろうとしている。

新料金制度のもとでは、各電力会社は新たに「経営効率化計画」を策定し、経営効率化を具体的な数値目標を示す形で織り込んで毎年度公表することとされた。

著者は、電気事業審議会料金制度部会の委員を努めておられることもあって電力の実態も非常に良く理解されており、部会の中間報告の結果なども踏まえて大変わかりやすく公正に解説されていると思う。

## 次号予定目次「エネルギー・資源」9月号(99号) (刊行：平成8年9/5)

### 〔論 説〕

Joint IEW/JSER International Conference on Energy, Economy, and Environment 総括  
 .....大阪大学工学部情報システム工学科助教授 朴 炳植

### 〔展望・解説〕

サステナブル・コミュニティ .....大成建設(株)設備設計第一部次長 並木 裕

### 〔特 集〕

#### 建築とライフスタイル

- (1)総論：建築とライフスタイル .....京都大学工学研究科環境地球工学専攻教授 中村 泰人  
 (2)建築におけるエネルギーの有効利用 .....北海道大学工学部教授 落藤 澄  
 (3)ビルの蓄熱システム .....三重大学工学部建築学科教授 相良 和伸  
 (4)住宅における電力負荷平準化 .....熊本大学工学部教授 石原 修  
 (5)建築のソーラーシステム .....工学院大学教授 中島 康孝  
 (6)地球環境負荷軽減の建築 .....(株)日建設計 環境計画室主管 伊香賀俊治  
 (7)住宅のエネルギー消費 .....東北大学工学部教授 吉野 博  
 (8)エネルギー消費とヒューマンファクター .....京都府立大学生生活科学部助教授 松原 斎樹  
 (9)実験集合住宅NEXT21の居住実験評価 その1設備研究サイドから  
 .....大阪ガス(株)商品技術開発部 志波 徹  
 (10)実験集合住宅NEXT21の居住実験評価 その2生活研究サイドから  
 .....大阪ガス(株)商品技術開発部 加茂みどり

### 〔シリーズ特集〕

#### 明日を支える資源 (62)

金属チタンの現状と将来 .....東邦チタニウム(株)チタン営業副部長 三戸 善晴

### 〔研究論文〕

電気自動車IZAとガソリン車とのライフサイクルCO<sub>2</sub>量の比較  
 .....国立環境研究所 地域環境研究グループ交通公害防止チーム 研究員 近藤 美則  
 " " " 主任研究員 森口 祐一  
 " " " 総合研究官 清水 浩  
 自動車交通部門における温暖化抑制技術の評価  
 .....東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻 今関 隆志

### 〔技術報告〕

PETボトル、PSPトレーのリサイクル代替案に関するエネルギー消費量の比較  
 .....国立環境研究所 社会環境システム部資源管理研究室長 乙間 末広他

### 〔見聞記〕

水素国際会議に参加して .....(株)エンジニアリング振興協会 WE-NET推進室長 岡野 一清

〔書 評〕 「地球時代の電気エネルギー」 .....関西電力(株)研究開発室調査役 雑賀 幹人  
 「エネルギー工学入門」 .....東京大学工学系研究科教授 吉田 邦夫  
 「エネルギー変換工学」 .....大阪市立工業研究所 工業化学課研究副主幹 小山 清

〔グループ紹介〕 旭硝子株式会社

〔技術・行政情報〕 .....大阪工業技術研究所 エネルギー変換材料部長 石川 博

〔談話室〕 「都市とエネルギーと災害」 .....ニュージェック(株)上下水道部 野田 浩男

〔編集委員会便り〕 .....京都大学工学研究科環境地球工学専攻教授 中村 泰人

〔'96(後半)内外のエネルギー・資源関連行事日程表〕〔会報〕〔次号目次〕